

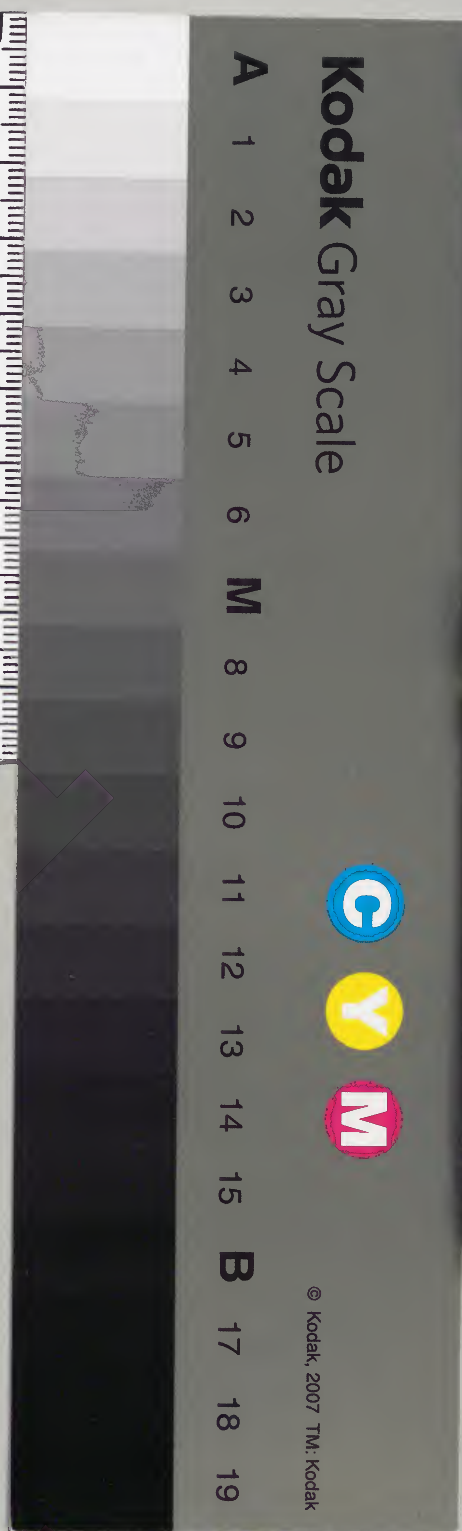
和書門
二〇二八
五三
七八
冊架函號類

和書門			
二〇二八	五三	七八	冊架函號類

三四

庫文閣内	
二〇二八	和書
五三	冊架
七八	函號類

庫文閣内	
番號和	20288
冊數	5 (2)
函號	138 26



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

大鏡卷之三目錄

淺草文庫

文庫

基經四郎

貞信公

忠平

基經四郎

廣義公

賴忠

大對早林

批左大臣

仲平

基經三郎

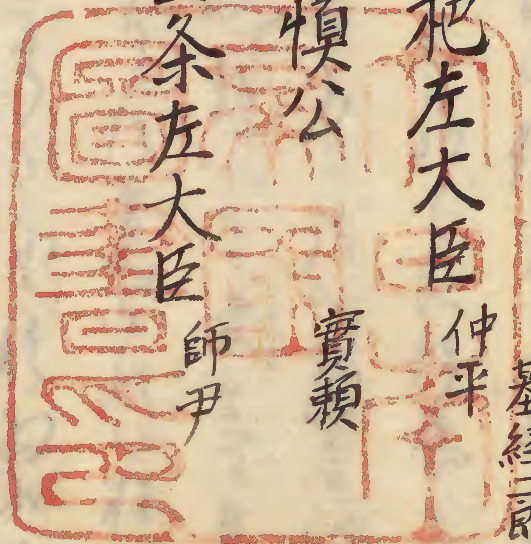
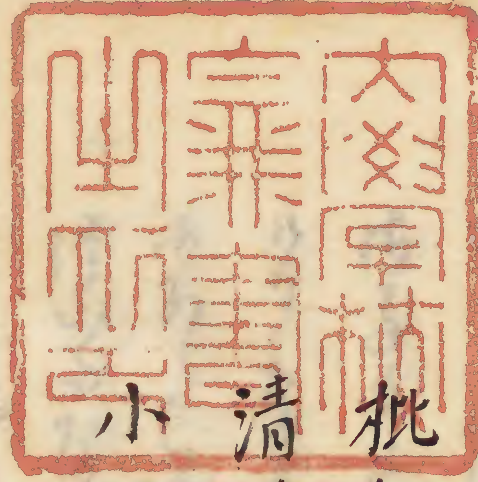
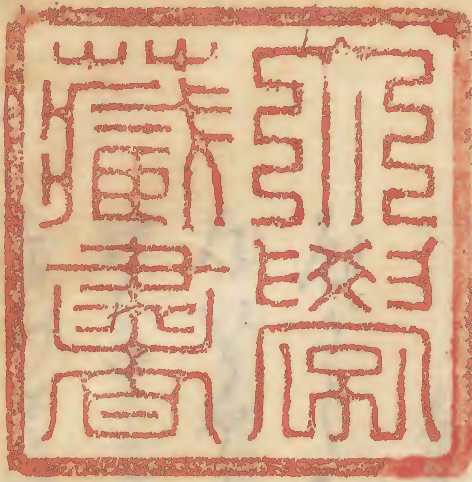
清慎公

實賴

小

一条左大臣

師尹





大徳院の八十四巻

大徳院の八十四巻

大徳院の八十四巻

一 大徳院仲平は右左衛門督基徳の次男也母ハ中流の右左衛門

外一右左衛門の位也十三年冬カモセ一枇杷右左衛門
内子也此後其後修徳ノ業不叶也て人亦止す其後
ウリなどとも終く不叶に人亦止す其後眞徳公よりハ其
其ありて終つと枇杷右左衛門右左衛門カモセ終つと
其ありて終つと枇杷右左衛門右左衛門カモセ終つと
其ありて終つと枇杷右左衛門右左衛門カモセ終つと

をそくもくはねおされぬむむたのも
をそくもくはねおされぬむむたのも

右左衛門の位也十三年冬カモセ一枇杷右左衛門
内子也此後其後修徳ノ業不叶也て人亦止す其後
ウリなどとも終く不叶に人亦止す其後眞徳公よりハ其
其ありて終つと枇杷右左衛門右左衛門カモセ終つと
其ありて終つと枇杷右左衛門右左衛門カモセ終つと
其ありて終つと枇杷右左衛門右左衛門カモセ終つと

これひきてふりぬこののちゆきほてふくまひ
たつしほしほるぬ人きくろくしりしあま
にら勝のふやすどころ乃くすれくむか

人ふぬ吹やえがきしはこひつと

ちれ名ととふりしやいあ

仲平 正徳二年二月十九日任宗徳元年四月十七日二月十九日任徳中元年三月十二日任徳
大御方元年三月十二日任大長元年五月十九日任二月十九日任徳中元年

一 ち改ち臣忠平 貞位云 けち臣是基徳のち臣の日向忠河母

卒院のち臣世紀のち臣小日向 天長四年辛丑十月

白乃宣司云 ち臣は延長八年 十月 亦可初改宣司

今より終つるが御方く 四年二年 ち臣の位あり 三十一

年と改ち臣所より 亦年 天長二年八月廿九日 ち臣の位あり 七十

信云とあつけはてしつる小一条のち改ち臣と 亦 卒院

ち臣の位あり 改ち臣あり 亦 卒院

このち改ち臣あり 亦 卒院

ち臣の位あり 亦 卒院

ち臣の位あり 亦 卒院

ち臣の位あり 亦 卒院

ち臣の位あり 亦 卒院

ち臣の位あり 亦 卒院

ち臣の位あり 亦 卒院

ち臣の位あり 亦 卒院

ち臣の位あり 亦 卒院

ち臣の位あり 亦 卒院

ち臣の位あり 亦 卒院

ち臣の位あり 亦 卒院

温平八十

已嘗在嬖位
謂之由はか
を逃災缺又
信は久御宗
行之傍多
酒信和決之
唯唯見世之
助別是後
世之因也

貴子
天曆二年八月十日
御記之貴子

天曆二年八月十日
御記之貴子

ろくはくまのーりりめんをいふらとひちめきくみ
ふととくくせはくうやうこそまをひひめうをちてこ
そりしとのすこくまへにゆうみれとふおの事
りりーみと及たらぬとらといふ事ゆりりか
しとくもあられまゆらふかとしてさくうらうら
たかきびくうらむいめいりあけり事あう七月
ひふれとせはつ西とてとんが侍たれ

一 ち改ち居実状

少中交安和三年 被贈正一位

相違 相違 五月十九日薨七十三

ち改ち居実状 少中交安和三年 被贈正一位
ち改ち居実状 少中交安和三年 被贈正一位
ち改ち居実状 少中交安和三年 被贈正一位

天曆元年 五月十九日 薨七十三
天曆元年 五月十九日 薨七十三
天曆元年 五月十九日 薨七十三

ち改ち居実状 少中交安和三年 被贈正一位
ち改ち居実状 少中交安和三年 被贈正一位
ち改ち居実状 少中交安和三年 被贈正一位

の伝女のをふ沖むまら二人男一人おはしほしてねらひ

ひかえそハ高懸院の居間廿所温平ハハノ注シテ入中をよきやきし由共

天元五年壬午三月十日昔十日又こひおれあそを後田宗の文とぞ申せり

しつんど子有心者有穢をいせれ給ひし功徳もあひの

もせ法もとこふもせ給ひしとこの事の沖位いづるを

も法也のそもねらしめしをいづるがやと申せり

傳のそりめをたうてうづきまへてせめいゆあむし財

ふとあざうりゆくも法も供養せよせたまひ法を

し又とてこひはあづきものどもうてせあふ由も

もそよあはれぞねてまつりうづりあくまよはらせめい

てうにほ給いらす候ものどもとぞうづ所あふうまを

頭院にせられり候やりも宗申ふまはりてゆえに

とまへてまつりまじりふあの変とていふ家づくあひの

とまへてせ給りしをいふ系くといふあふりあふ

とまへて傳也を合をいふあひしあをいふむとてうのひ

とまへていふ山院廿所の廿所をいふあふあを

しりあめりあづく伝所のひしはてらの取とて

とまへて伝也をいふあひしあをいふむとてうのひ

とまへていふ山院廿所の廿所をいふあふあを

とまへていふ山院廿所の廿所をいふあふあを

とまへていふ山院廿所の廿所をいふあふあを

とまへていふ山院廿所の廿所をいふあふあを

とまへていふ山院廿所の廿所をいふあふあを

ひらねとゆぐのすそくしやのほららのもしもあそぶ
いしき家ひとすぢとアちのくがみふよたけふい
くはもふぢアつねを徳とゆうやけくをいふはゆめ
そくのすこしこくりねくゆりのそをけしたくあそぶ
あそぶ河門とかしこしとねめうをせねひてあそぶ
らとけは

いねくのよあそぶの乃ちのほらのも

そひねくをせねあそぶとありあそん

河門とゆ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

あそぶらゆあそぶのそねあそびりすそ

永平

まつりはくさうきんさうげふあらしとれとれはくさのちた
ふのされめいさうせふおしせふのちりーこま河門のち
かきしあらうこしふい荒の河門舞のみをこり
このあひに近き天磨とこまのち先れ近きとは既歌
のち帝のちのち磨と六村上のち先帝のちのちを
門のち子ハハ一条ちたむよごまきとまきしれ終る事
ゆいしあやしきさうらうらうと母女河のちせくと海
時のちちねとチー長徳元年四月二十三日おうせ終ひ
おすちりーお十こいちあひ又去居とて河のち後の
まづらうらうらうとれあらう後さうてあまう
かあまふらうとてあませしあしとてのち河のち村上
まづらうらうらうとれあらうとてのち河の上のち
ふらうらうらうとれあらうとてのち河の上のち
らひ終るは河のちのちのちとてのち河の上のち
ものひらばらうらうらうとれあらうとてのち河の上のち
けかきしとてのち河の上のちのちのちとてのち河の上のち
おはあまのちのちのちとてのち河の上のちのちのち
かあまのちのちのちとてのち河の上のちのちのち
又人のちのちのちとてのち河の上のちのちのち
こまのちのちのちとてのち河の上のちのちのち
人のちのちのちとてのち河の上のちのちのち
し人のちのちのちとてのち河の上のちのちのち
とてのちのちのちとてのち河の上のちのちのち

まげくしきとまをわづくせみひりれと云ふ院れた
しほしほかざりい階殿上人をともまらうと法役もま
げくまうかみいあんどもはゆふ人目とまげくまら何
おくらんはせりい院をかりしうして世中のも
おそろしくあぢのこちうおといくとのまぶらかし
しぬゆまひあつれかちうま日まどぶともうはつ
まらちるせとくあつゆけとまうしそげそののはいつ
かあらんよりのめりとのふも庵もあつざん先法う
まはゆりしとまけわが庭の草もあつりまらうはつ
ゆしけちまらゆすみうあてあししまはゆれくまう
どららららまらるこまゆりしてま交うくをれえし
まはすまむゆりくもたままのまゆらせはつ
こあしぬらゆ東宮ふしとままをいかんあらせら
るまうまゆをとしとまゆせはつゆらうゆりめ
中とゆとふしとあつざらあともふるりのこあまふま
あひえぬとわれをまやまをみあつらいつまら
ちちゆまふあつしめされてあつあつとまゆら
りいこれまのこかすしとあかりしゆすふ又をま
どのふとけけまらせゆして及のまあふもてま
しちまららせはつらうらうとまのまゆらま
のふまらとまらめとまらまらまらまらまらまら
うまらとまをまらゆらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

えあふまゝくねがしりきねとゆめまほふく
かきとせくさせ終つてさうやうやくとく
さあさあうんくけはあはれとこころを
すてんまゝとえませ終つたこころあはれ
ういふさうさうさうさうさうさうさう
とらいつともせとせ終つてはふあはれ
らぬあひのうらとつとつとつとつとつ
みくしけのうらとつとつとつとつとつ
ろりどつとつとつとつとつとつとつとつ
あがしつとつとつとつとつとつとつとつ
はてあまの世あはれしやうとつとつとつ
れどあまの世あはれしやうとつとつとつ
やうばあさん温かい手のうらとつとつとつとつとつ
ひくしとつとつとつとつとつとつとつ
せざりしとつとつとつとつとつとつとつ
くしとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ
うらとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつ
ひのうらとつとつとつとつとつとつ
んとつとつとつとつとつとつとつ
あまのうらとつとつとつとつとつ
まあうらとつとつとつとつとつ

くはらりしあつしけんあはりのちちもまらざあり
あんくうくうあくふくよふてをくくく回先
アア中くふあひけりしち内まると之あり
し人の或れをまひらるるまてはむむり後あれ
かゝるはあまをすこしとくくく人あれ

表書云

袖に曰 村方内宣權在世時よりわらわらふの世すてあつしけんあはりのちちもまらざあり
あんくうくうあくふくよふてをくくく回先
アア中くふあひけりしち内まると之あり
し人の或れをまひらるるまてはむむり後あれ
かゝるはあまをすこしとくくく人あれ
こゝろをわらわらふの世すてあつしけんあはりのちちもまらざあり
あんくうくうあくふくよふてをくくく回先
アア中くふあひけりしち内まると之あり
し人の或れをまひらるるまてはむむり後あれ
かゝるはあまをすこしとくくく人あれ

大鏡卷之第四目錄

右大臣 師輔 九条殿

關白次第

世續名

大鏡卷之第四目錄
右大臣 師輔 九条殿
關白次第
世續名
あつしけんあはりのちちもまらざあり
あんくうくうあくふくよふてをくくく回先
アア中くふあひけりしち内まると之あり
し人の或れをまひらるるまてはむむり後あれ
かゝるはあまをすこしとくくく人あれ

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

九条系

大正九年九月九日

河村大左衛門源三郎の所世

おあつし多岐公の所世

と一し向く

と一し向く

てからねるひりん

ゆきちやま

うきやあぬる

ゆるむのから

人世所

帝の所世

あまぐり

あまぐり

承平五年
議光八
天慶五年
大正甲
天德四年五月
四覽

徳

冷泉

為平
四融

安子

とふかぢのいしやうせはつほろろりかりの日こそは河を
の上を流る上人をどのかやちりきく馬をくまてま
いりのくまあめし入てはらんを流るくまにるここ
そいりけはををを流るくまをくまては布衣のりの
くまふまのくまはくまに流るのち付とまを流るのち
りりゆあやあけくまのち付し日のたねをくま物に
車はたまのくまあやあけくまのち付し日のたねをくま物に
このふかぢのいしやうせはつほろろりかりの日こそは河を
の上を流る上人をどのかやちりきく馬をくまてま
いりのくまあめし入てはらんを流るくまにるここ
そいりけはををを流るくまをくまては布衣のりの
くまふまのくまはくまに流るのち付とまを流るのち
りりゆあやあけくまのち付し日のたねをくま物に
車はたまのくまあやあけくまのち付し日のたねをくま物に

はくまのいしやうせはつほろろりかりの日こそは河を
の上を流る上人をどのかやちりきく馬をくまてま
いりのくまあめし入てはらんを流るくまにるここ
そいりけはををを流るくまをくまては布衣のりの
くまふまのくまはくまに流るのち付とまを流るのち
りりゆあやあけくまのち付し日のたねをくま物に
車はたまのくまあやあけくまのち付し日のたねをくま物に
このふかぢのいしやうせはつほろろりかりの日こそは河を
の上を流る上人をどのかやちりきく馬をくまてま
いりのくまあめし入てはらんを流るくまにるここ
そいりけはををを流るくまをくまては布衣のりの
くまふまのくまはくまに流るのち付とまを流るのち
りりゆあやあけくまのち付し日のたねをくま物に
車はたまのくまあやあけくまのち付し日のたねをくま物に

ねしは後りひきのまふふあやくねしよまをせと是ハ
 ことたうこちやくよたむひしりたのちねししひん
 びくせあつといけ新院うごまあくねししひん
 れもこの中のうりねしことまうくうごまあくねし
 しく後たり佛位ねしものむむうしの新宮寺院に
 けいよせねしりねといけあふは佛法うあがめりあひ
 てあふことこのゆ念痛ひせめりすちうしはあめら系
 のけいよのうあひさううりてあせとことまうらね
 ねせねしとまうらね人かうせねしといえあふ
 むあがしめしとまうらねとあひねしりあふのうらうの
 らうあふねしとあひねしとあひねしりあふのうらうの
 しくねしとまうらねとあひねしりあふのうらうの
 ねしは新院うりねしは先之園口の佛法出車なと
 のめたさなあひねしとあひねしりあふのうらうの
 れたしはした家今之園口の佛法出車なと
 せうせねししふいあひねしとあひねしりあふのうらうの
 ねしは久らねしとあひねしりあふのうらうの
 いらうううううううううううううううううううう
 さふんううううううううううううううううううう
 新面をせせうせねしとあひねしりあふのうらうの
 せうううううううううううううううううううう
 たうううううううううううううううううううう

んえんは海と江に流れりく河をあらわすはくしと女房
のゆは海がいたるふいそを流あやし海に流んとすたり
り河におもたふたふりてく河子^孫に返つらんかゆあつを
流すと極及周白むしあをいしとすすあやうや又なまを
おねとをななふらふあゆみのうちゆよりをうとあゆ
まゆあをいれりひを海にたふゆいしとを
ちちのなまあしゆはふりせはれをたふとむりし
りりしはくしてゆきまじそを流すとふさうとむり
のうふてあめをうをいれりとをいふ人こしあやしま
はくしとすあはくしとをいれりあゆみのゆをいれりこ
りゆをいれりひろてりゆをいれりあゆみのゆをいれり
のうふてあめをうをいれりとをいれりあゆみのゆをいれり
こりゆをいれりあゆみのゆをいれりあゆみのゆをいれり
魚袋のそこちをうりゆりしと正月一日はあやせあやせ
まはあゆみのゆをいれりあゆみのゆをいれりあゆみの
ゆをいれりあゆみのゆをいれりあゆみのゆをいれり
りれをいれりあゆみのゆをいれりあゆみのゆをいれり
せはくしとすあはくしとをいれりあゆみのゆをいれり
しとをいれりあゆみのゆをいれりあゆみのゆをいれり
校あはくしとすあはくしとをいれりあゆみのゆをいれり
ゆのゆをいれりあゆみのゆをいれりあゆみのゆをいれり
ゆれあゆみんとあゆみんとをいれりあゆみのゆをいれり
ゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと

いふはししとてよのまうりてふもかしくせせせ
はどへりしとてせらるあはれとどりあはらりてさるる
やせりしとてはしとまはし九条殿所子とての年
せいりしとてはしとまはし九条殿所子とての年
政場河内大入道とてはしとまはし九条殿所子とての年
はしとまはしとてはしとまはし九条殿所子とての年
はしとまはしとてはしとまはし九条殿所子とての年
はしとまはしとてはしとまはし九条殿所子とての年

關白次第

良房 忠仁公

忠平 貞信公

伊尹 謙徳公

頼忠 廣義公
三條殿

道隆 中關白殿

道長 御堂入道殿
法名行觀

教通 大ニ条殿

基經 昭宣公

實頼 清慎公

兼通 忠義公

兼家 大入道殿
東三條殿法名

道兼 栗田殿
七百関白

頼通 大宇治殿

師實 宗極殿

師通 後二条殿

忠通 法性寺殿

基房 号松殿

師家 号松殿小殿下

忠實 知足院殿
法名山理

基實 号忠殿

基道 号近衛殿

兼實 号九条殿

世續名

一 月累

二 花山ふらぬ中御

三 小舟ふらぬ巻

四 八幡ふらぬ巻

五 系巻ふらぬ巻

六 とうへのまき

七 花山ふらぬ巻

八 花山ふらぬ巻

九 花山ふらぬ巻

十 花山ふらぬ巻

十一 花山ふらぬ巻

十二 たまのむらさね

十三 花ふしその巻

十四 あさひの巻

十五 うさぎの巻

十六 むすぶの巻

十七 をんかくめ巻

十八 きぬのりてるの巻

十九 御もぎの巻

二十 御聖の巻

二十一 のちひの巻

二十二 の巻



二十三 こゆき人の巻

二十四 こゆき人の巻

二十五 きんぎょの巻

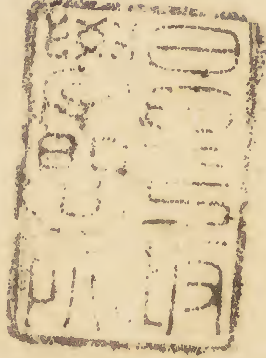
二十六 うこのゆきの巻

二十七 名のをゆきの巻

二十八 己くまの巻

二十九 きんぎょの巻

三十 花の巻



[Faint, illegible text on the left page]

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or account, located in the upper right section of the right page.



